

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
招請講演1	黒川 清	考えよ、問いかけよ	○
招請講演2	Carlos del Rio	Long COVID: What have we learned so far?	○
招請講演3	自見 英子	新型コロナウイルス感染症を経験した日本における今後の感染症対策について	○
招請講演4	Christian G. Giske	Multidrug-resistant Gram-negative bacilli: mechanisms, treatment options, and EUCAST perspectives	○
招請講演5	安藤 公一	医療用医薬品、特に抗菌薬の安定供給の現状と課題～国の立場から	○
招請講演6	Sunjoo Kim	Lessons from MERS and Countermeasures against COVID-19 in Korea	○
特別講演1	藤本 陽子	医師として成せること～製薬企業で働く医師の視点から	○
特別講演2	満屋 裕明	抗ウイルス薬の研究・開発と展望：次のパンデミックに備えて	×
特別講演3	井元 清哉	データベース・人工知能を使った研究の今後	○
特別講演4	河野 茂	長崎大学のBSL-4施設の意義と果たすべき役割	○
特別講演5	侯野 哲朗	感染症基礎研究：ベンチからベッドへ	○
特別講演6	石井 健	これからのワクチンデザイン	○
教育講演1	菊地 正	日本の伝播性薬剤耐性HIVサーベイランス	○
教育講演2	山口 哲央	これから始める人のためのNGSを用いた分子疫学解析方法	×
教育講演3	飯田 哲也	細菌ゲノム解析の進歩と今後の展開	○
教育講演4 「ワクチンについて」	君塚 善文	ワクチンアジュバント	○
	石黒 智恵子	リアルワールドデータを用いた承認後ワクチンの安全性と有効性評価について～COVID-19ワクチンを事例に～	○
教育講演5	藤谷 茂樹	重症患者の感染症管理（ECMO/IMPELLA 使用時）	○
教育講演6	貫井 陽子	蚊媒介ウイルス感染症 Up To Date	○
教育講演7	佐々木 淳一	大規模イベント開催時の感染対策	○
教育講演8 「災害時の感染症対策」	櫻井 滋	アカデミアによる自然災害における感染制御チーム Disaster Infection Control Teamの発足まで	○
	川口 辰哉	熊本地震における感染制御チームによる避難所感染制御活動とDICT普及に向けて	○
教育講演9	大塚 喜人	感染症領域POCTの活用ポイント	○
教育講演10	浜田 幸宏	日本化学療法学会誌・感染症学会誌に投稿してませんかー薬剤師業務と研究の架け橋ー	○
教育講演11	畠山 修司	AMR対策とCOVID-19が抗菌薬使用に与えたインパクト	×
教育講演12	有吉 紅也	グローバル化時代における熱帯医学教育は国際連携を活用して	○
教育講演13 「薬業連携によるAMRへの取り組み」	宇野 弘展	千葉県版AMR事業における薬局薬剤師の役割	×
	大黒 幸恵	将来の小児医療を守る！ 薬局薬剤師の立ち位置を活かしたAMR対策活動と薬業連携	○
教育講演14	西 圭史	感染症を志す薬剤師の育成と課題	○
教育講演15	青柳 哲史	急性感染症におけるサイトカイン制御	○
教育講演16	山本 和子	細菌叢と免疫	○
教育講演17	関 雅文	インフルエンザ2022-2023の総括と今後の展望	○
教育講演18	森川 茂	EMボックス（サル痘）	×
教育講演19	奥川 周	大腸菌の多様な病原因子と菌血症	×
教育講演20	志馬 伸朗	敗血症における感染症早期診断とASP	○
教育講演21	下野 信行	渡航外来のこれから	○
教育講演22	藤倉 雄二	肺炎球菌感染症	○
教育講演23	青木 洋介	本学術集会の国際化への取り組み：英語同時通訳団設置の提案	○
教育講演24	北沢 貴利	腎盂腎炎 -内科医の立場から-	×
教育講演25	永井 英明	結核治療のUp to date	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
特別企画1 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの改訂内容について」	北原 加奈子	薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの全体像について	×
	菅井 基行	薬剤耐性の動向とサーベイランスについて	○
	大曲 貴夫	普及啓発と適正使用の推進について	○
	山野 佳則	薬剤耐性(AMR)用抗菌薬の創薬開発について	○
	長江 翔平	薬剤耐性（AMR）対策のアクションプランの厚生労働省分野について	×
特別企画2 「感染症専門医のこれからとキャリアパスを考える」	矢野 晴美	3G (gender, generation, geography)を超えるWell-being 2.0のキャリア	○
	庄司 健介	小児感染症医としてのキャリアの積み上げ方	○
	土井 洋平	米国の感染症専門医から見た日本の感染症専門医の今後のあり方	○
特別企画3	夏目 徹	ロボットとAIが実現する研究の自動化・遠隔化	○
特別企画4 「感染症とロボット・AI：感染症診断とAIの活用」	柳原 克紀	感染症診断における現状と課題—AIに期待すること—	○
	佐藤 寿彦	AIの臨床診断学への応用	○
	阿部 吉倫	感染対策におけるAI問診技術の応用と将来展望	○
	沖山 翔	感染症判定AI『nodoca（ノドカ）』を用いた、口腔内視鏡によるインフルエンザ診断の実験・課題・展望	○
特別企画5 「COVID-19から次の新興感染症に備える①： その時、四学会はどう動いたか？ 新型コロナウイルス感染症から私たちが学んだものと今後の課題」	吉田 正樹	その時、日本環境感染症学会はどう動いたか？—新型コロナウイルス感染症から私たちが学んだものと今後の課題—	○
	四柳 宏	日本感染症学会のCOVID-19への対応-これまでの取り組み・今後の課題-	○
	松本 哲哉	日本化学療法学会、および日本臨床微生物学会の対応	○
特別企画6 「COVID-19から次の新興感染症に備える②： ベットからベンチへ（臨床研究から基礎へ、臨床検体を基礎研究につなぐためには）」	南宮 湖	パンデミック時に遂行するトランスレーショナル研究～コロナ制圧タスクフォースの経験から～	○
	鈴木 忠樹	COVID-19対策に資する多領域連携研究における感染病理学の役割	○
	岩元 典子	新興感染症研究の迅速化のための検体利用スキームの立ち上げと運用	○
	岩見 真吾	新興感染症の異分野融合研究：時系列バイオマーカーのデータサイエンス	○
特別企画7 「若手研究シンポジウム」	谷岡 友則	リポソームドキシルピリンとリクシマブ併用療法が有効だったHIV関連多中心性キャスルマン病（MCD）の2例	○
	遠藤 真果	インフルエンザウイルスA/B検出試薬を使用した超高速PCR GeneSoCの臨床的有用性	○
	佐々木 英	RSV感染症の流行と人流との相関に関するインフォグラフィック的解析	○
	小林 裕和	COVID-19ワクチン4回目接種における2価ワクチンのBA.2、BA.5に対する中和活性評価	×
	深堀 未宇	新型コロナウイルスワクチンの抗体価： モデルナ社製ワクチン接種者とファイザー社製ワクチン接種者の比較と接種後抗体価の推移	○
特別企画8 「COVID-19から次の新興感染症に備える③：社会の中で」	正林 督章	バトナムから見た日本のコロナ対策	○
	土井 洋平	医療体制の課題	○
	谷口 清州	感染症危機管理における課題と今後の展望	○
	武藤 香織	新興感染症のパンデミックに対する倫理的助言の提供体制	○
特別企画9 「COVID-19から次の新興感染症に備える④： 新興感染症は止まらない（具体的な疾患への対策）」	押谷 仁	新興コロナウイルス感染症	○
	竹下 望	鳥インフルエンザ・新型インフルエンザ対策	○
	高田 礼人	ウイルス性出血熱	○
	大曲 貴夫	サル痘などの人獣共通感染症	○
特別企画10 「COVID-19から次の新興感染症に備える⑤： ベンチからベットへ（基礎研究から病態把握・基本的感染対策・ワクチン・治療まで）」	松浦 善治	SARS-CoV-2のウイルス学	○
	高橋 宜聖	SARS-CoV-2から教えられた免疫の適応力	○
	園田 憲悟	COVID-19に対するワクチン開発から次の新興感染症に対するワクチン開発に向けて	×
JaSAジョイントシンポジウム 「感染臓器から考える敗血症」	金城 武士	呼吸器感染症による敗血症の現状と課題	○
	中田 孝明	腸管・腹腔内感染症	○
	伊藤 雄介	中枢神経感染症今昔物語	○
	和田 耕一郎	尿路性器感染症	○
	島崎 淳也	重症軟部組織感染症治療の実際	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
ジョイントシンポジウム1 「院内における多剤耐性菌の感染制御 -サーベイランス確立に向けて-」	藤谷 茂樹	海外ICUにおけるサーベイランスの実情	○
	松永 展明	J-SIPHEを用いた多剤耐性菌対策について	○
	藤田 烈	JHAISでの取り組み 日本のICUおよび急性期病棟における医療関連感染の発生状況	○
	川上 小夜子	JANISでの取り組み	○
ジョイントシンポジウム2 「薬剤耐性菌感染症への挑戦」	山岸 由佳	薬剤耐性菌に対する新しい抗菌薬と微生物検査	○
	森永 芳智	宿主における薬剤耐性菌の保菌メカニズム	○
	川村 英樹	COVID-19流行下における抗菌薬の適正使用	○
	菅野 みゆき	COVID-19流行下における薬剤耐性菌対策	○
ジョイントシンポジウム3 「人獣共通感染症研究の魅力と今後の展望」	古瀬 祐気	ウイルス性出血熱、COVID-19の経験から次のパンデミックは予測できるか？	○
	安藤 匡子	Q熱とその起因細菌<I>Coxiella burnetii</I>	○
	MoiMengLing	蚊媒介性ウイルス感染症の世界的な流行状況とワクチン開発の現状	○
	サトウ 恵	ラオスにおける人獣共通感染性Neglected Tropical Diseases (NTDs)	×
	城戸 康年	熱帯感染症の新規創薬：抗ヒトアフリカトリパノソマ症薬の早期臨床開発計画を例に	○
ジョイントシンポジウム4 「COVID-19時代のインフルエンザ戦略」	日向 佑樹	時系列を味方につける診療所でのインフルエンザ戦略	○
	工藤 仁隆	病院外来でのインフルエンザ戦略	○
	岸田 直樹	コロナも流行するインフルエンザシーズンの救急外来での診断・治療戦略	○
	齋藤 昭彦	COVID-19流行下の小児のインフルエンザ戦略	○
ジョイントシンポジウム5 「非結核性抗酸菌症の診断と治療update！」	御手洗 聡	非結核性抗酸菌症の検査法	○
	中川 拓	難治性肺MAC症の治療戦略	○
	倉原 優	最近増えている肺Mycobacterium abscessus症をどう治療するか	○
	山田 勝雄	肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療の現在	○
シンポジウム1 「HIV感染症における現場の課題と解決へのアプローチ」	田沼 順子	エイズ対策の国際的動向とFast-Track Cities Initiatives	○
	水島 大輔	HIV感染予防におけるPrEPとセクシャルヘルス	○
	今橋 真弓	HIV検査体制における“困った”と“やってみる”の話	○
	谷口 俊文	HIVの早期治療の導入と課題	○
	吉野 友祐	Patient Reported Outcome (PRO)とHIV診療	○
シンポジウム2 「Empiric therapy最適化の取り組み」	鈴木 圭	複雑性尿路感染症のempiric therapyを考える：救命救急室（ER）の視点から	○
	瀧田 洋平	Empiric therapyにカルバペネムを含まない工夫初期治療＝最適治療となる抗菌薬選択を目指して	○
	松村 康史	臓器移植患者の感染症における最適なempiric therapy	○
	茂呂 寛	院内肺炎におけるempiric therapyの最適化について	○
シンポジウム3 「Clostridioides difficile感染症ガイドライン2022改訂を受けて」	柳原 克紀	抗CDI適正使用における検査のあり方	○
	森 伸晃	フィダキソマイシン	○
	吉澤 定子	メトロニダゾール（経口・静注）	×
	山岸 由佳	<I>Clostridioides difficile</I>感染症の再発抑制と発症予防策について	○
	松元 一明	抗菌薬適正使用	○
シンポジウム4 「呼吸器感染症の最新情報 at a glance」	石田 直	インフルエンザUp to Date	○
	宮下 修行	市中肺炎	○
	佐々木 結花	結核と非結核性抗酸菌症	○
	齋藤 昭彦	COVID-19流行下の小児の呼吸器ウイルス感染症の変化	○
	前崎 繁文	呼吸器真菌症の最新情報	○
	宮崎 義継	移植患者の病理組織からの真菌診断	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
シンポジウム5 「ワンヘルスシンポジウム～多角的に考える耐性菌対策～」	臼井 優	食用動物由来薬剤耐性菌に対する対策	○
	島本 整	市販野菜由来の薬剤耐性菌の解析と対策	○
	鈴木 聡	水産業関連の環境における薬剤耐性菌・耐性遺伝子の実態と対策	○
	具 芳明	市中で広がる薬剤耐性とその対策	○
シンポジウム6 「感染症治療における薬物相互作用への介入を考える」	山口 諒	薬物相互作用の考え方	○
	小林 瑞季	抗HIV薬における薬物相互作用のマネジメント 薬剤師の役割	○
	木村 丈司	COVID19治療薬における薬物相互作用	○
	浜田 幸宏	抗真菌薬における相互作用	○
シンポジウム7 「タニ媒介感染症の最近の話題」	松野 啓太	Eゾウウイルス発見の経緯	○
	忽那 賢志	DPCデータを用いた日本紅斑熱の治療の有効性の検討	○
	末盛 浩一郎	SFTS 最近の疫学と治療の展望	○
	前田 健	日本国内のマダニから検出されるウイルス	○
シンポジウム8 「薬剤耐性グラム陰性桿菌感染症の臨床 up to date」	大楠 清文	CLSI update : 薬剤感受性検査の解釈と留意点	○
	上地 幸平	診療に役立つ薬剤感受性検査・耐性菌検査の進歩	○
	松村 康史	薬剤耐性腸内細菌目細菌感染症の治療	○
	吉澤 定子	難治性緑膿菌・アシネトバクター感染症の治療	×
シンポジウム9 「見て覚える感染症」	忽那 賢志	感染症における肉眼所見の重要性	○
	佐田 竜一	臨床推論における視診の重要性：その特徴と限界、及び注意点について考える	○
	石塚 晃介	臨床写真を学術誌に投稿しよう	○
	平島 修	臨床動画を通じて伝えたいこと	○
シンポジウム10 「ソーシャルメディアを用いた感染症の啓発—stigmaに立ち向かう—」	田中 幹人	COVID-19の事例から振り返るSNSコミュニケーションの課題	○
	古賀 道子	血液凝固因子製剤による感染者の抱える諸問題	○
	谷口 俊文	LGBTQ+・性感染症罹患者の抱える問題点	○
	越智 小枝	医療者の災害時クライシスコミュニケーションの重要性：COVID-19パンデミックなどを例に	○
	田中 敏博	小児領域における感染症の啓発を考える	○
シンポジウム11 「外来でみられる感染症と抗感染薬の適正使用」	大石 智洋	マイコプラズマ肺炎	×
	高橋 洋	非定型菌による呼吸器感染症	○
	小泉 祐介	細菌性腸炎	×
	木村 匡男	抗菌薬の供給問題と適正使用	○
シンポジウム12 「特殊病態下での抗微生物薬の適正使用」	西村 翔	悪性腫瘍を有する患者での新規βラクタマーゼ阻害薬を含めた抗菌薬の適正使用とは	○
	西村 知泰	肺非結核性抗酸菌症	○
	奥田 菜緒	COVID-19 患者における抗菌薬の適正使用について	○
	冲中 敬二	血液悪性腫瘍患者と抗真菌薬の適正使用	○
シンポジウム13 「感染症創薬に向けた研究基盤の構築と新規モリティ等の技術基盤の創出」	大場 雄介	ウイルス感染時の膜とイオンダイナミクスのイメージング	○
	高山 和雄	オルガノイドや臓器チップを用いた高次in vitro評価系の構築と感染症創薬への応用	○
	高屋 明子	新規抗菌薬開発の基盤となる細菌パーシスター制御化合物創出に向けた取り組み	○
シンポジウム14 「急性感染症の治療」	宮崎 泰可	医師主導治験：コロナ治療薬治験の課題	○
	横地 美優	企業治験：日本と世界の相違	○
	河野 美那子	実際現場では—臨床研究コーディネーター（CRC）の立場から—	○
	池松 秀之	急性感染症の治療臨床の現場での経験	○
	佐藤 淳子	急性感染症治療薬の開発促進に向けて —国際協力の観点から—	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
シンポジウム15 「国際感染症に対する海外派遣実績とこれからの課題」	杉原 淳	IDES派遣、GOARN派遣について	○
	砂川 富正	FETPの国際的な活動について（海外派遣を含む）	○
	古宮 伸洋	GOARN海外派遣の経験	○
	小玉 千織	IDES海外派遣から現在に至るまで	○
シンポジウム16 「ASTを担当する薬剤師の具体的な活動を共有し、発展させよう！」	内藤 結花	昭和大学病院ASTにおける活動内容とその評価	○
	瀬山 翔史	大学病院におけるAST活動の軌跡を振りかエル（KAERU）	○
	足立 参希	中小病院における抗菌薬適正使用支援チームの活動の実際	○
	栞 秀樹	ニーズを探し、タイミングよく介入する。東京ベイ式AST。	○
シンポジウム17 「感染症診療の視点で考えるセブシス診療ガイドラインの課題」	松田 直之	敗血症の定義の変遷	○
	垣内 大樹	敗血症診療におけるバイオマーカーの有用性	○
	松嶋 麻子	Hour-1 bundle	○
	中馬 真幸	抗菌薬の適正使用を意識した敗血症診療ガイドラインの活用	○
	石井 潤貴	日本版敗血症診療ガイドライン2020におけるステロイドの立ち位置と実際	○
	斎藤 浩輝	臨床研究・データ活用	○
	福永 興吉	本邦におけるCOVID-19罹患後症状について—多施設共同調査研究結果を踏まえて—	○
シンポジウム18 「Long COVIDについて(基礎から臨床まで)」	森岡 慎一郎	Long COVIDの発生機序	○
	大塚 文男	実臨床におけるLong COVID —診断と治療—	○
	吉村 幸浩	HIV治療の変遷 3剤治療から2剤治療へ	○
シンポジウム19 「HIV/AIDSの注射用治療薬の展望と課題」	安達 英輔	時効性抗HIV薬による治療 --- 医師の立場から	○
	矢倉 裕輝	HIV感染症に対する持続性注射薬の展望と課題 -薬剤師の立場から-	○
	大金 美和	HIV/AIDSの注射用治療薬の展望と課題 看護師の立場から	○
	定平 卓也	腎移植後感染症	×
シンポジウム20 「泌尿器科感染症：代表的な感染症～あなたはどうしていますか～」	北野 弘之	ロボット手術の周術期感染症と予防(ロボット支援下膀胱全摘術後)	○
	前田 光毅	逆行性尿路造影後感染症	○
	恵谷 俊紀	結石性腎盂腎炎の診断と治療アップデート	○
	松本 正広	腎・前立腺腫瘍	○
	伊藤 晋	非淋菌性尿道炎の診断と治療	○
シンポジウム21 「性感染症：今、知っておきたい診断と治療」	安田 満	淋菌性尿道炎の診断と治療	○
	井戸田 一朗	梅毒の診断・治療の新たな局面	○
	松本 哲哉	近年に上市された抗微生物薬について	○
シンポジウム22 「新薬育業シンポジウム（近年上市された抗微生物薬の方向性）」	白沢 博満	新規抗菌薬開発における困難と将来に向けての現実的な対応について：企業の立場から	○
	松元 一明	薬剤師の立場から、これまでとこれからの育業	○
	大毛 宏喜	これまでとこれからの育業—医師の立場から	○
	高橋 宜聖	COVID-19ワクチンの有効性を免疫学的に評価する	○
シンポジウム23 「COVID-19ワクチンの有効性を科学的に評価する」	福島 若葉	疫学の立場から—COVID-19ワクチンの有効性の疫学的評価について—	○
	氏家 無限	臨床の立場から—COVID-19ワクチンの実社会での有効性について	○
	黒木 春郎	小児・地域プライマリケアでの治療	○
シンポジウム24 「コロナの治療：私はこう治療している。」	水野 泰孝	重症化リスク因子の低い成人における治療	○
	倉井 華子	重症化リスク因子の高い成人（免疫不全者など）における治療	○
	佐藤 文哉	重症化リスク因子の高い成人（高齢者）における治療	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
シンポジウム25 「教訓的事例に学ぶ：Lessons learned」	東 桃代	治療方針について主科との意見が割れた教訓的事例	○
	仲村 究	ESBL産生性大腸菌の院内アウトブレイク事例から学ぶ	○
	的野 多加志	ICUにおける重症感染症の教訓的事例～本邦初の<I> Candida auris</I>血症～	○
	加藤 英明	教訓的事例をどのようにシェアするか	○
シンポジウム26 「賢い抗菌薬の使い分け～私はこちら考える～」	中村 茂樹	呼吸器感染症における抗菌薬の適正使用と賢い使い分け	○
	渡邊 学	消化器外科医が考える腹腔内感染症の治療戦略	○
	高橋 聡	尿路感染症領域での使い分け	○
	中嶋 秀人	中枢神経感染領域	○
シンポジウム27 「新たな臨床微生物検査が臨床に与えるインパクト」	上塚 義典	検査室のオートメーション化が臨床に及ぼすインパクト	○
	中村 竜也	薬剤感受性検査における新たな技術と臨床応用	○
	大城 健哉	微生物の同定における新たな技術と臨床応用	○
シンポジウム28 「コロナ禍における感染症の変動—増加した疾患、減少した疾患—」	高橋 聡	梅毒の診断と治療のUp-to-date	○
	春木 宏介	マラリア	○
	多屋 馨子	麻疹・風疹	○
	菱木 はるか	インフルエンザ、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナなど	○
シンポジウム29 「免疫不全者に対するワクチン効果」	沖中 敬二	がん患者に推奨される感染症予防ワクチンとその接種の意義	○
	有安 まり	パンデミック時のワクチン開発における課題	○
	荒木 康弘	我が国におけるワクチン開発の振り返りと今後の展望・アカデミアに期待する役割	○
シンポジウム30 「実践的深在性真菌症診療」	土戸 康弘	固形腫瘍・自己免疫疾患患者における実践的深在性真菌症診療	○
	高園 貴弘	臓器移植領域の深在性真菌症 ～診断・治療のポイント～	○
	荒岡 秀樹	COVID-19と真菌感染症	○
	植田 貴史	Antifungal Stewardship実践における薬剤師の役割	○
シンポジウム31 「アスペルギルス研究会メモリアルシンポジウム」	亀井 克彦	はじめに：アスペルギルス研究会の歴史	○
	濱島 良介	アスペルギローマ動物モデルの歴史と展望 ～先人の業績と我々の新しい挑戦～	○
	渡邊 哲	耐性アスペルギルスについて	○
	鈴木 純子	肺アスペルギルス症の臨床研究	○
	宮崎 義継	アスペルギルスの基礎研究	○
シンポジウム32 「成人を診ている先生方にも知っていただきたい小児感染症」	相澤 悠太	手足口病	○
	勝田 友博	小児COVID-19の特徴	○
	天羽 清子	感染症関連小児急性肝炎	○
	倉井 大輔	RSウイルス感染症	○
シンポジウム33 「MRSA感染症の診療ガイドライン2023を考える」	植田 貴史	MRSAによる菌血症においてVCMのMICが> 1μg/mLの場合はDAPIに変更すべきか	○
	川筋 仁史	血流感染においてLZDIは第1選択となりうるか	○
	畑 啓昭	術前のMRSA除菌は推奨されるか	○
	内山 勝文	抗MRSA薬含有骨セメントの使用は術後の深部手術部位感染予防に有用か	○
シンポジウム34 「バンコマイシンのTDM—トラフ値からAUCによる評価の検証」	尾田 一貴	PATの開発からこれまで、そして今後の展望	○
	下山 航平	バンコマイシンのTDMにおけるAUCとトラフ値の有効性および安全性に関する検討	○
	檜山 洋子	AUC評価による変革，明らかとなった課題—救急・集中治療領域	○
	丹羽 隆	トラフ値のみから算出したAUCに基づいた投与設計	×

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
Meet the Expert1	岸本 裕充	口腔外科領域の感染症	○
Meet the Expert2	加藤 康幸	マラリアの臨床	○
Meet the Expert3	佐村 優	市中病院の抗菌薬適正使用に関連した臨床研究を進めるには？	○
Meet the Expert4	渡邊 哲	深在性真菌症の診断と治療	○
Meet the Expert5	保科 斉生	トキシプラズマ	○
Meet the Expert6	本田 なつ絵	バイオマーカーの使い方	×
Meet the Expert7	塚田 訓久	HIV感染症の診断・治療・予防	○
Meet the Expert8	森内 浩幸	予防接種Up to Date（コロナ時代のコロナ以外のワクチン）	○
Meet the Expert9	丹羽 隆	抗菌薬TDMの最前線-測定からMIPDまで-	×
Meet the Expert10	加來 浩器	アウトブレイク調査のススメ	○
Meet the Expert11	内藤 俊夫	伝染性単核球症について再考しよう	○
Meet the Expert12	岡本 耕	固形臓器移植後の感染症へのアプローチ	○
ワークショップ 「あなたの日常診療を科学にしよう Accepted Paper Session —臨床研究の着想から論文acceptまで成功体験を共有する—」	幾瀬 樹	“スタンダード”を疑って、目の前の感染症を深掘りする —エンテロウイルスD68の流行の経験から新規P C R アッセイの開発へ—	○
	渡邊 裕介	当院における <i>L.monocytogenes</i> 菌血症の危険因子の検討	○
	服部 拓哉	研究費や実験機器のない研究環境で取り組む論文投稿	○
	山本 健人	一般外科医が目指すクリニカルエッセンスの解決と論文での情報発信、感染症診療の質の向上	○
	萩谷 英大	「とりあえず週末は継続しようか」って言ってませんか？～抗菌薬治療期間の適正化を目指して～	○
	賀来 敬仁	日本におけるMRSA血流感染症の分子疫学的解析	○
男女共同参画推進委員会企画 「医師としての自分を高める～論文の書き方、リーダーシップの取り方を先輩医師から学ぶ」	上原 由紀	感染症の世界の進み方：避けられないリーダー業と研究の話	○
	村島 温子	女性が学会理事になるということ	×
三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会報告	和田 耕一郎	第12回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランスの結果報告 - 単純性膀胱炎 2020年 -	○
	高橋 聡	第12回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス - 複雑性尿路感染症 2020年 -	○
	安田 満	第13回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会報告 2021年尿道炎(淋菌)	○
淋菌感染症アドホック委員会報告	青木 弘太郎	2022年に全国で分離された淋菌のハイスループットジェノタイピング手法によるジェノタイピングと耐性メカニズムの解析	×
	安田 満	2022年に全国で分離された淋菌の薬剤感受性	○
DPCを用いた臨床研究に関するアドホック委員会報告	中田 孝明	DPCを用いた臨床研究に関するアドホック委員会報告	○
外来抗菌薬適正使用調査委員会報告	藤友 結実子	全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査(第3回)	○
抗菌薬化学療法認定医制度審議委員会報告	青木 洋介	指導医試験の現況を踏まえて	○
第5回臨床研究促進助成中間報告	青木 亜美	抗1型インターフェロン抗体に着目したCOVID-19診療ストラテジーの構築	×
日本感染症学会 専門医審議委員会報告	山本 善裕	感染症専門医審議委員会報告	○
COVID-19重症化因子探索事業ad hoc委員会報告	中村 造	日本人における新型コロナウイルス感染症に関する重症化因子の探索	○
	荒岡 秀樹	抗菌薬・抗真菌薬の使用状況と、感染症合併の解析	○
	畑 啓昭	RQ (リサーチクエスト) からわかったこと	○
	小泉 祐介	学会主導の臨床研究を経験して —今後の提言を含めて—	×
日本感染症学会 分担研究班報告	森 伸晃	COVID-19が感染症診療に及ぼした影響に関する調査（日本感染症学会）	○
第38回症例から学ぶ感染症セミナー	—	—	×
第66回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー（Advanced） 年次テーマ：「医療関連感染症 advanced basic—現在の患者診療と耐性化防止のバランス—」 テーマ：「本当ですか？あなたの知っているつもり」	浦上 宗治	経口抗菌薬の特徴とスイッチ治療の実践法	○
	岸本 裕充	全身感染症の門戸としての歯性感染症	○
	吉田 耕一郎	カンジダ血症のリスク因子と抗真菌薬による治療	○
	岡田 健作	事例検討「新型コロナウイルス感染症診療で抗菌薬は必要か」	○
	千酌 浩樹	事例検討「新型コロナウイルス感染症診療で抗菌薬は必要か」	○

セッション名	演者 ※敬称略	演題名	オンデマンド 配信
一般演題（口演）	—	—	×
一般演題（ポスター） ※会期中3日間はWEB視聴ページより発表データの閲覧が可能です。	—	—	×
新薬シンポジウム1 共催：旭化成ファーマ株式会社	—	イザブコナゾール	×
新薬シンポジウム2 共催：塩野義製薬株式会社	—	「エンシトレルゼル フマル酸（ソコバ®錠）」の適正使用 - 様々な立場からの議論（聴講者参加型） -	×
スポンサーシンポジウム1 共催：MSD株式会社	—	COVID-19診断・薬物治療に関する最新情報	×
スポンサーシンポジウム2 共催：塩野義製薬株式会社	—	感染症による不安のない社会を目指して	×
スポンサーシンポジウム3 共催：杏林製薬株式会社	—	気道感染症治療とAMR対策 ～気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言(改訂版)を踏まえて～	×
スポンサーシンポジウム4 共催：ミヤリサン製薬株式会社	—	プロバイオティクスに対する免疫学的アプローチ	×
スポンサーシンポジウム5 共催：MSD株式会社	—	肺炎球菌ワクチンのポジショニングを再考する	×
スポンサーシンポジウム6 共催：日本製薬工業協会	—	日本発の抗菌薬を再び世界へ！産学官の連携による創薬エコシステムの構築	○
スポンサーシンポジウム7 共催：ファイザー株式会社 メディカル・アフェアーズ部	—	新型コロナウイルス感染症における罹患後症状 ～各専門領域からのメッセージ～	×
ランチョンセミナー1 共催：キリアド・サイエンス株式会社	—	COVID-19治療に対するアンメットメディカルニーズ -入院下における早期の抗ウイルス治療-	×
ランチョンセミナー2 共催：ビオフェルミン製薬株式会社/大正製薬株式会社	—	プロバイオティクスの新知見と臨床応用の展開	×
ランチョンセミナー3 共催：インスメッド合同会社	—	肺NTM症：国際ガイドラインと実地臨床における薬剤選択	○
ランチョンセミナー4 共催：株式会社キアゲン	—	高感度かつ網羅的なウイルスゲノム・薬剤耐性検出のための新しい提案	○
ランチョンセミナー5 共催：アストラゼネカ株式会社	—	COVID-19感染症の実態と感染管理	×
ランチョンセミナー6 共催：サノフィ株式会社	—	髄膜炎菌感染症のリスクと新たなワクチンによる予防	×
ランチョンセミナー7 共催：Meiji Seika ファルマ株式会社	—	上気道感染症に対する抗菌薬適正使用：基本と次の一手を考える	×
ランチョンセミナー8 共催：アステラス製薬株式会社/大正製薬株式会社	—	Post COVID-19時代の呼吸器感染症診療	×
ランチョンセミナー9 共催：ウィーブヘルスケア株式会社/塩野義製薬株式会社	—	長期的観点から考える抗HIV感染症治療～将来を見据えた薬剤選択～	×
ランチョンセミナー10 共催：モデルナ・ジャパン株式会社	—	基礎とRWDから紐解くmRNAワクチン	○
ランチョンセミナー11 共催：第一三共株式会社	—	インフルエンザとCOVID-19	×
ランチョンセミナー12 共催：グラクソ・スミスクライン株式会社	—	～50歳からの带状疱疹予防に、世界初の組換えサブユニットワクチン※～ ※ウイルス表面タンパクの一部を抗原とした組換えワクチン	×
ランチョンセミナー13 共催：MSD株式会社	—	グラム陰性菌感染症治療における抗菌薬適正使用	×
ランチョンセミナー14 共催：ビオメュー・ジャパン株式会社	—	感染症医と検査室のクロストーク～血液培養の更なる向上を目指して～	×
ランチョンセミナー15 共催：キリアド・サイエンス株式会社	—	長期療養時代のHIV診療におけるP R O～慢性疾患におけるPatient voiceの重要性～	×
ランチョンセミナー16 共催：ファイザー株式会社	—	COVID-19診療 [※] のポイントとパキロピッドの位置づけ ※パキロピッドの効能又は効果はSARS-CoV-2による感染症	×
ランチョンセミナー17 共催：アイリス株式会社	—	AI医療機器nodoca、開発プロセスの開示とAIの将来像展望	○
ランチョンセミナー18 共催：住友ファーマ株式会社	—	深在性真菌症に対する抗真菌薬の適正使用	×
ランチョンセミナー19 共催：一般社団法人日本MA-T工業会	—	MA-T（要時生成型亜硫酸イオン水溶液）の効果と展望～高い効果と安心・安全が両立した日本発の感染症対策～	○
ランチョンセミナー20 共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン コンシューマーヘルス	—	感染症予防の新たな潮流ーセルフ口腔ケアの実際	○
イブニングセミナー1 共催：ファイザー株式会社	—	新型コロナウイルスワクチンのこれまでのエビデンスとこれからの考え方	×
イブニングセミナー2 共催：武田薬品工業株式会社	—	新型コロナウイルス感染症の臨床症状、診断と治療、院内での感染対策についてーこれまでに判ってきたことー	×